

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		ミライク西長堀教室		公表日		令和7年4月21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		細かな配置を区切りながら、療育スペースを設置している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		人員基準を順守した上で配置。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	施設内の段差や障害物等を無くしスムーズに移動ができるよう配慮。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		日々毎回、清掃時間を設け整理整頓を含めて美化を保つよう取り組んでいる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		指導訓練室と静養室 その場に応じた使い分けで集中できるスペースを確保。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	職員全体・個別ミーティングで振り分けて意見交換し支援へ活かしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		引き続き保護者の意向を把握し業務改善につなげていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ホームページにて公開。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	7	外部評価はまだ行っていないので今後どのような形で評価を受けるかを検討している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	定期的にスキルアップ研修の実施。 外部研修は年に一回以上の参加としている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		特性・その都度様子に応じた支援プログラムを作成。ホームページにて公開。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	1	利用開始前や過程の中 都度ミーティングにて全職員共有で行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	全職員で意見交換のもと実施。		

14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		計画に沿いながらも、特性や都度様子の変化に対応できるよう事前共有を心掛けている。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		事業所で作成しているアセスメントシートを都度活用。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	計画書にて、項目ごとにねらい・内容を含めた記載済み。 分かりやすく明確な具体案を提示。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		全職員で意見交換のもと実施。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		毎日に分けて活動を変更。 安全管理を徹底のもと外出活動も取り入れている。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		児童の課題とニーズに応じて職員と1対1の時間や、SSTの為に集団活動を行っている。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		職員間でのスケジュール把握 口頭・書面ミーティングで徹底している。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		全体ミーティングのみならず 個別でも都度気付いた点を共有。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		活動内容記録を共有のうえ 検証・改善につなげる。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		必要に応じた見直しを実施。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		その場に応じた臨機応変な対応も念頭に、あくまでも基本活動に沿った支援の強化。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	アセスメントを基に、短期・長期目標での支援計画を策定。 利用者様各々の特性を活かしたうえで、環境や対人関係に注力しながら実践。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。			児童発達支援管理責任者を主として、経験・状況把握に長けた職員の参画。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	5	地域会合での繋がり、学校や事業所内での担当会議を交え、関係機関との連携をスムーズに図れるよう対応している。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	保護者様を通じて下校時刻の確認・連絡調整などを行っており、その都度対応できるように努めている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3	保育所や幼稚園との直接の情報共有はないが、相談支援所を通じて情報共有を行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	7	卒業する年齢の利用者様がまだいないが、必要に応じて情報共有は行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	年4、5回程の地域会合での出席で、他専門機関との連携や研修を受講済み。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	現状では交流の機会がない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		会合がある際は事前準備の基、出席。もしくはオンラインでの参加。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時などの時間で状況を伝えている。必要に応じては時間を設け事業所等でお話をさせて頂くこともある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	現状ではペアレントトレーニングは行っていない 今後取り組むために必要な事を事業所内で検討段階。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用開始前、契約時に重要事項等含めて説明。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		利用開始前の説明や利用後のモニタリングでお子様・保護者様共に希望・移行を汲み取り、相違の無い計画書を作成。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		利用開始前・契約時に重要事項等含めて、利用後は都度モニタリングにて同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		家庭訪問・事業所内にて状況にあわせて対応させて頂く。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	7	現状、予定段階中。 希望も伺いながら進めていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	家庭訪問・事業所内にて迅速に対応させて頂く。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		利用予定表・活動内容スケジュール等都度配布させて頂いている。その他ブログでのご案内。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		全職員が共有事項として厳重に管理。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		利用者様の特性、家庭環境等を把握したうえで配慮。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	現時点ではまだ、地域の方を招待するイベントは行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	マニュアルは策定済み。職員の周知は行っているが保護者様には行き届いておらず。今後配布できるような形を進める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年に二回以上の防災・避難訓練の実施。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		利用開始前に口頭・書面を用いて都度確認している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		医師の指示書も含めて食物を扱う際は留意するようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		マニュアルは策定済み。職員の周知徹底と、研修・勉強会で用いた内容を実践。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6	保護者様には行き届いておらず。今後、様々なツールを使用したうえで配布できるような形を進める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		細かな所、ケガに繋がらなかった事でも積極的にヒヤリハット事例を作成している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		引き続き、定期的に管理者・児童発達支援責任者を中心に職員同士の研修機会を設けていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束について全職員徹底共有のもと研修を実践。活動中や予期せぬ物事に対して利用者様の安全確保を優先。行動制限に関しては事前に保護者様に説明し了承を得ている。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 ミライク西長堀教室

公表日 令和7年 4月 21日

利用児童数 54名

回収数 41

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	38			3		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	40			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	2		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	41					
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	41				特性を理解してもらえていない スタッフもいると、本人より。	特性・その都度の様子等、全職員間で 漏れなく徹底共有のもと寄り添う。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	41					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	41					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	1		2	本人支援については積極的に 行ってもらっているが、家族支援 ・移行支援については不明。	家族支援・移行支援についても、 各家庭やその他取り囲む状況に応じた 支援体制を整える。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	41					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	40			1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	23	3	6	9	地域の他の子どもと活動することが あるのかわからない。	地域の行事や交流プログラムへ、集団活 動等を交えながら積極的参加を实践。
保護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	41					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	41					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	6	8	8	家族への支援プログラムについては お聞きしたことがない。	家族支援についての情報提供を、 細やかに分かりやすい提示として推進す る。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	41					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	2		3	子育ての助言等の支援は受けていない。	職員、保護者間で、より密な信頼関係を 築き 実行に移しやすい支援等のコミュニケー ションを怠らない。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	41					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	9	6	10	保護者同士の交流やきょうだい同士の 交流の機会があったのかわからない。	父母参加型のカリキュラム、ご利用児童 以外のきょうだい含めた共有イベントも 参加を募り検討。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	35	2	4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	41				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	37		4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	40		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	2	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	38		3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	41				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	37	1	3	事故等がない為。	持病・イレギュラーでの事故等の怪我等を含めて、起こるべく事態に備えて事業所での伝達・連携方法を全職員で徹底共有。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	41				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	40	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	41			毎回魅力的なプログラムが充実し、本人が通所の楽しみにしている。	プログラムのマンネリ化を避け、特性・関係性・スキル等のバランスで、良い点を伸ばせるべく常にカリキュラムを活性化。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライク西長堀教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 3日		令和7年 3月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50名	(回答者数) 41名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		令和7年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> 調理・外出活動、プレゼンテーション等の様々な活動を行っている。特に家庭で中々経験しない手先器用さに重点を置き、パン・餃子作り等を取入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理活動のメニューを固定化せずバラエティーに富んだ内容を取り入れる。 子どもたちの好きな活動を取り入れたりすることで活動へのモチベーションを高めている。

2	職員同士の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ MTGや普段からの雑談を交えて、常時コミュニケーションを図れる環境を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な職員間MTG ・ 相談しやすい環境作り
3	子ども同士が仲良し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動で様々な年代の子と関わりが持てるようにしている。 ・ 地域を越えた関わりをもつことで、子どもたちがより幅広くコミュニケーションを図る事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラブルの際はしっかりと話しに耳を傾ける。 ・ 集団活動で協力したり、相手の気持ちを考えたりできるようお友達とペアになる活動を取り入れている。
4	子どもたちのパソコンスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的にタイピング大会・プログラミング発表を行い、集団活動でのタイピングゲーム「漢字でGO」では楽しくタイピングの練習ができるようにしている。 ・ 基礎的なスキルを身に付ける為の活動にゲーム要素を取り入れる事で、楽しんで取り組む事ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイピング大会で景品を出したり結果を掲示し子どもたちの競争心を刺激。 ・ 成功体験での喜びを分かち合う。
5	保護者との密なやり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常に電話・LINEメッセージ等での連絡や、送迎時に子どもたちの様子を伝えコミュニケーションを図っている。 ・ 送迎時、状況に応じて適宜に保護者とコミュニケーションを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの普段の様子を写真に収め(同意を頂いたうえで)、保護者へ送付する。

6	子どもと職員の関係が良好	・一緒に遊んだり、対話(悩み事や雑談)を 寄り添いながら交える。	・適度な距離感を保ち、子どもとの会話を充実させる。
---	--------------	-------------------------------------	---------------------------